

公開シンポジウム

入場無料

温暖化最前線！

事前予約不要

～鹿児島島の植物たちはどうなる？～

近年、問題となっている気候変動による鹿児島県内の植物への影響について、森林総合研究所や鹿児島大学、地域の市民団体で精力的に調査、研究が進められています。本シンポジウムでは、特徴のある成果を分かりやすく紹介します。

開催日時

令和8年1月31日（土）

13:30～16:30

会場

鹿児島大学稲盛会館



【主催】

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所九州支所

【後援】

九州森林管理局 九州地方環境事務所 鹿児島県
鹿児島市 鹿児島大学総合研究博物館
鹿児島大学農学部 屋久島学ソサエティ
九州電力株式会社鹿児島支店



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

講演

温暖化が鹿児島県の植物相に及ぼす影響

田金 秀一郎（鹿児島大学総合研究博物館）

日本でも有数の植物多様性を誇る鹿児島県には、在来・帰化植物を合わせて4,047種類もの植物が確認されている。温暖化によって鹿児島県の植物はどのような影響が出ており、今後どうなっていくのだろうか。いくつかの植物の事例を紹介しつつ、鹿児島県の植物多様性の変化について考えてみたい。

天空の花・屋久島最高山帯に生きるヤクシマリンドウと温暖化

手塚 賢至（屋久島照葉樹林ネットワーク）

ヤクシマリンドウは屋久島の標高1800m以上の花崗岩のわずかな岩の割れ目にのみ自生する、種の保存法指定種・絶滅危惧IB類。屋久島において最も温暖化の影響を受ける可能性が高い種といえる。2009年～東北大学と連携して最高峰の宮之浦岳等高山帯での全個体ジェノタイピング調査が実施され、自生状況が把握された。このデータを元に16年を経た2025年夏、永田岳周辺で実施したモニタリング調査の結果を報告する。

“森の女王”のピンチ？ 温暖化でどうなる鹿児島のブナ

金谷 整一（森林総合研究所九州支所）

鹿児島県内では、冷温帯林の主要構成樹種であるブナを霧島山系、高隈山系および紫尾山で見ることができる。分布南限である鹿児島県では、将来的に温暖化でブナ林は衰退あるいは消失することが予想されている。講演では、紫尾山や九州各地での調査事例を紹介しつつ、鹿児島におけるブナ林の将来について考えてみたい。

温暖化で鹿児島の果樹栽培は今後どうなる？

香西 直子（鹿児島大学農学部）

ニホンナシの発芽不良やブドウの着色不良、温帯果樹栽培の南端に位置する鹿児島県では、すでに温暖化による影響が出始めている。このまま温暖化が進むと鹿児島県の果樹栽培は今後どうなるのか？講演では、鹿児島県が抱える果樹栽培の現状と課題について考える。

鹿児島でお花見ができない？

勝木 俊雄（森林総合研究所九州支所）

鹿児島県内の‘染井吉野’の開花状況を調べたところ、開花の遅れや花芽の落下などの開花異常が県内の広範囲な地域で生じており、鹿児島市では10年に8度の割合で異常であると推測された。また、今世紀末の鹿児島市では、まったく咲かなくなる年が生じると予想された。

パネルディスカッション



会場案内

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24

J R 鹿児島中央駅から
市電（郡元方面行き）：7～8分
（唐湊または工学部前電停下車）

J R 郡元駅から
徒歩：5分（工学部正門まで）

※温室効果ガス排出削減のため、来場は公共交通機関をご利用ください。
※会場内で出ましたゴミ等につきましては、各自でお持ち帰りください。

問い合わせ先

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 九州支所
電話：096-343-3168（代表）
MAIL：kyswebmaster@ml.affrc.go.jp

